

産婦人科領域感染症に対するCefpiromeの使用経験

蓮尾 豊・斎藤良治

弘前大学医学部産科婦人科学教室*

高澤 哲也

国立弘前病院産婦人科

棟方 哲・斎藤 勝

弘前市立病院産婦人科

安斎 栄一

五所川原市立西北中央病院産婦人科

高橋 秀身・神部 憲一

大館市立総合病院産婦人科

産婦人科感染症6例に対し、cefpirome(CPR)を1回0.5～1.0 g, 1日2回の点滴静注にて投与し、その臨床効果の検討を行い、以下の成績を得た。

1) 臨床効果は6例すべてが有効であり、有効率100%であった。2) 細菌学的効果は2例が菌の消失, 1例が菌の交代, 3例は判定不能であった。3) 自他覚的副作用は全例に認められなかった。4) 臨床検査値の異常は2例にGOT, GPTの一過性の上昇を認め, 1例に白血球数の一過性の減少をみた。

以上の成績より産婦人科感染症に対するCPRの有用性が示唆された。

Key words : Cefpirome, 産婦人科領域感染症

Cefpirome(CPR)は、7位にamino-thiazolyl基, 3位にcyclopentenopyridine基を有する新規注射用セフェム系抗生物質である。本剤は、いわゆる第三世代のセフェム系抗生物質と比較し、より広範囲な抗菌スペクトルを有し、とくに、*Staphylococcus aureus*, *Pseudomonas aeruginosa*に対しても抗菌活性を有する。また、 β -lactamaseに対し安定であり、その親和性は低い¹⁾。

今回、私たちは日本セル株式会社から本剤の供与を受け、産婦人科感染症を対象とし、その臨床的有用性と安全性につき検討したので報告する。

対象は、昭和63年12月から平成元年9月までの間に、弘前大学医学部附属病院産婦人科および関連病院産婦人科で産婦人科感染症として治療された6例である。

その内容はTable 1に示すように、急性卵管炎2例、骨盤死腔炎、ダグラス窩膿瘍、卵管溜膿腫および子宮溜膿腫各1例の計6例である。

本剤の投与方法は、全例点滴静注で、1回0.5～1.0 g, 1日2回, 7～13日間行った。総投与量は7～26 gであった。

効果の判定は、臨床症状、検査所見の推移から下記の3分類で判定した。

1. 著効：主要自他覚症状が3日以内に著しく改善し、治癒に至った場合
2. 有効：主要自他覚症状が3日以内に改善の傾向を示し、その後治癒に至った場合
3. 無効：主要自他覚症状が3日経過しても改善されない場合

ただし、手術・切開などの外科的療法を併用して著効であったものは著効とせず有効とした。

本剤の各症例の臨床成績はTable 1に示し、本剤投与前後の臨床検査値をTable 2に示した。

臨床効果は対象となった6例全例で、ともに有効であった。細菌学的には、6例中5例に菌が分離された。細菌学的効果としては、菌消失2例、菌交代1例、菌採取部位の問題などで判定不能としたもの3例であった。尚、菌の採取部位は、症例1が後腹膜腔リンパ嚢胞穿刺、症例2がダグラス窩穿刺によるもの、症例3, 4, 5, 6, が子宮腔から頸管にかけての内容物であった。菌消失のみ

* 〒036 弘前市本町53

られた2症例(Table 1, 症例3, 6)につき, 臨床経過を例示する。

症例3. M. K. 27歳, 55 kg, 卵管溜膿腫

本症例は, 下腹部痛, 発熱を主訴として来院した。内診で子宮体部には圧痛はなく, 卵管と思われる有痛性の索状の腫瘍を触知した。超音波断層検査にても卵管の腫大を認めた。卵管溜膿腫と診断し, 本剤を1回0.5 g, 1日2回点滴静注で7日間の投与を行った。本剤投与2日後には, 入院当初39.3℃であった発熱も36.8℃に下降した。また, 16700/mm³あった白血球数も3日後には9000/mm³に減少した。下腹部痛も投与3日後には消失した。細菌学的効果は, 投与前に子宮腔内より*Streptococcus*

morbillorum (MIC 0.1 µg/ml)および*Peptostreptococcus species* (MIC 0.1 µg/ml)が分離されたが, 7日目の検体からは菌の検出は認められなかった。

症例6. S. H. 87歳, 47 kg, 子宮溜膿腫

本症例は, 子宮体癌の患者で, 膿性帯下などから子宮溜膿腫と診断し, 本剤を1回0.5 g, 1日2回点滴静注で8日間の投与を行った。本剤投与により膿性帯下は減少し, 投与前に子宮腔内より検出されていた*S. aureus* (MIC 0.78 µg/ml)は, 投与7日目には消失した。

自他覚的な副作用は全例に認められなかった。臨床検査値の異常としては, Table 2に示すごとく, 症例2において投与終了時GOT 24→67 IU/L, GPT 35→64 IU/L

Table 1. Clinical results of cefpirome treatment

Case no.	Age (y)	BW (kg)	Diagnosis	Underlying disease	Isolated organism	Before after	Treatment			Clinical efficacy	Bacteriological effect	Side-effects
							daily dose (g × times)	duration (days)	total dose			
1	64	57	retroperitoneal abscess	post-op. radical hysterectomy	<i>E. faecium</i>		1.0 × 2	7	14	good	unknown	none
					<i>E. faecalis</i>							
2	32	56	Douglas' abscess	none	<i>Actinomyces sp.</i>		1.0 × 2	7	14	good	exchange	elevation of GOT, GPT
					<i>P. aeruginosa</i>							
3	27	55	pyosalpinx	none	<i>S. morbillorum</i>		0.5 × 2	7	7	good	eliminated	elevation of GOT, GPT
					<i>Peptostreptococcus sp.</i>							
4	40	44	salpingitis	uterine myoma	<i>E. faecalis, S. aureus</i>		1.0 × 2	8	16	good	unknown	none
					<i>E. coli</i>							
5	48	81	salpingitis	uterine myoma	(-)		1.0 × 2	13	26	good	unknown	leucopenia (5800→1900)
					(-)							
6	87	47	pyometra	endometrial cancer	<i>S. aureus</i>		0.5 × 2	8	8	good	eliminated	none
					(-)							

Table 2. Laboratory findings of cefpirome treatment

Case no.	RBC (× 10 ⁴)		Hb (g/dl)		Ht (%)		WBC		GOT (U)		GPT (U)		Al-P (U)		BUN (mg/dl)		S-Cr (mg/dl)	
	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
1	328	335	10.8	10.5	31.2	31.1	9400	5400	34	10	45	22	93	99	4	5	0.5	0.6
2	410	356	12.3	10.6	38.2	33.5	13500	4500	24	67	35	64	176	164	13	12	0.5	0.4
3	377	361	12.6	11.9	36.6	35.2	16700	10300	24	37	39	72	197	341	4.3	5.8	0.7	0.8
4	466	450	9.4	9.1	31.4	31.1	9700	6800	21		23		129					
5	425	400	12.1	11.7	37.2	35.3	5800	2700	17	22	15	17	124	114	15.2	14.1	0.9	0.8
6	464	386	10.5	9.1	36.8	30.8	7200	5100	19	16	10	9	130	101	42.3	25.2	1.8	1.4

B: before, A: after

と上昇したが、投与終了後12日目にはGOT 17 IU/L, GPT 13 IU/Lと、正常域に下降した。症例3においても、投与3日目にGOT 24→78 IU/L, GPT 39→110 IU/Lと上昇をみたが、投与継続にてもそれ以上の上昇はみられず、投与終了時にはGOT 37 IU/L, GPT 72 IU/Lと下降傾向を示し、投与終了後6日目にはGOT 15 IU/L, GPT 30 IU/Lと正常域に下降した。症例5においては、本剤投与後11日目にWBCが5800→1900 /mm³と減少したが、投与終了後12日目には自然に4200 /mm³へと増加した。以上3症例の検査値はいずれも、投与中あるいは投与後、すみやかに正常化しており、一過性の変化と考えられた。

近年、セフェム系抗生剤を中心として、グラム陽性、グラム陰性菌にわたる幅広い抗菌スペクトラムを有する各種誘導体の開発が多数行われている。今回報告の本剤、CPRもこの種の薬剤の一つである。

CPRはグラム陽性、陰性菌にわたる幅広い抗菌スペクトラムを有し、*S. aureus*, *Staphylococcus epidermidis*に対してMICが0.2 μg/mlから0.39 μg/mlとcefotaxime (CTX)に比べ4倍から8倍強く、また腸内細菌群に対しても、ceftazidime(CAZ), latamoxef(LMOX), cefoperazone(CPZ), CTXとほぼ同等か、若干強い抗菌力を示す。*P. aeruginosa*に対する抗菌力はCAZの1/2程度であるものの、CTXより4倍程度強く、CPZとほぼ同等とされる。一方、嫌気性菌に対する抗菌力は、グラム陽性菌で、

CTX, CMXとはほぼ同等な強い抗菌力を示すが、グラム陰性菌では両剤より劣っていると報告されている¹⁾。今回の私たちの症例でも、症例4と6で*S. aureus*が検出され、MICは0.39 μg/mlおよび0.78 μg/mlであり、CAZのMIC 6.25 μg/ml(2例共)に比べ高い感受性を示した。ところで、岡田らは²⁾産婦人科感染症から分離される頻度が高いものは、グラム陽性菌では*S. aureus*, *S. epidermidis*, *Enterococcus faecalis*, グラム陰性桿菌では*Escherichia coli*, *Klebsiella pneumoniae*, 嫌気性菌のなかでは*Peptostreptococcus* sp., *Bacteroides* sp. などが多いと報告している。私たちの少数の症例にもこの傾向がみられ、本剤投与によりすべての症例で有効と判定された。

副作用として自他覚的なものは全く認めず、臨床検査値の異常として、2例にGOT, GPTの上昇を認め、1例に白血球数の減少を認めたが、いずれも一過性であり、投与中あるいは投与終了後、早期に正常域に回復した。

以上のことから、本剤は産婦人科感染症に対し有用性が高く、安全性についても問題ないものと考えられる。

文 献

- 1) HR810概要, ヘキストジャパン株式会社, 日本セル株式会社
- 2) 玉舎輝彦, 伊藤邦彦, 渡辺邦友: 産婦人科で問題となる病原微生物. 産婦人科領域感染症(岡田弘二, 松田静治編), 20~33, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1988

CEFPIROME IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

YUTAKA HASUO and YOSHIHARU SAITO

Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Hirosaki University
53 Honmachi, Hirosaki 036, Japan

TETSUYA TAKAZAWA

Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki National Hospital

SATORU MINAKATA and MASARU SAITO

Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki Municipal Hospital

EIICHI ANZAI

Department of Obstetrics and Gynecology, Goshogawara Seihoku Central Hospital

HIDEMI TAKAHASHI and KENICHI KANBE

Department of Obstetrics and Gynecology, Ohdate Municipal General Hospital

Cefpirome (CPR), a new parenteral cephalosporin, was administered to 6 patients with gynecological and obstetric infections by i.v. drip infusion at a dose of 0.5–1 g twice daily for 7–13 days. Diagnosis were salpingitis in two patients, and retroperitoneal abscess, Douglas' abscess, pyosalpinx and pyometra in one patient each.

Clinical efficacy was good in all patients, the efficacy rate being 100%, and the bacteriological effect was eliminated in 2, exchanged in 1 and unknown in 3.

No remarkable side effects were found. Regarding laboratory values, slight elevation of GOT and GPT was found in two cases, and leukopenia in one case.

From the above results, we consider CPR to be a useful agent for obstetric and gynecological infections.